

# にゅとびあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

城と祭りと輝く未来  
岸和田市制100周年



No. 134



無料配布中

「にゅとびあ岸和田」は世界の人のびと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



Since 1989

ifa-きしわだ  
岸和田市国際親善協会



ifa-kishiwada.rinku.org

## 明けましておめでとうございます



岸和田市は令和4年11月1日に市制100周年を迎えました。大正11年(1922)11月1日、大阪府内で3番目、全国で87番目の市として誕生し、昭和23年(1948)に現在の市域となりました。そして今日まで泉南地域の中心的役割を果たしながら大きな発展を遂げてきました。一方、国際文化都市を目指す岸和田市にとっても、関西国際空港を間近に控え、市民レベルでの、国際交流を進める組織体の設立を望む声が高まりつつありましたが、これに応える形で、平成元年(1989)7月1日 岸和田市国際親善協会設立総会が開かれました。そして発足以来、市民外交の中核的な存在として、日本語指導者養成講座、外国人のための日本語サロン、外国人のための

だんじりインフォメーションセンターを開設し、祭りを世界へ発信、にゅとびあ会報紙の発行など幅広い事業活動を展開し、岸和田市の国際交流発展に大きく貢献してきました。岸和田市では中国・汕頭市、米国・サウス サンフランシスコ市、中国・上海市楊浦区、韓国・ソウル特別市永登浦区、これら4都市と姉妹友好都市を締結し、親交を深めています。

市制施行100周年記念協賛事業の一環として、岸和田市国際親善協会では、特定配布先限定版「やさしい日本語を使いましょう」冊子を発行しました。また11月1日記念式典にご出席された姉妹都市締結30年となったサウス サンフランシスコ(SSF)市代表4名様への“おもてなし”歓迎行事(2頁参照)に参画しました。さらに記念式典に先立ち、新型コロナウイルス感染症に対する万全の感染対策を取りながら、10月31日(月)歓迎夕食交流会が南海浪切ホールで開かれ、38名の会員と岸和田市文化国際課の皆様と共に交流をはかりました。代表団を代表して、来岸5回目となったフランク マックオーリー姉妹都市協会会長より、伝統ある活気にあふれた岸和田市を称賛し、常しえの友好の絆と国際交流を切望する旨のお言葉をいただきました。(広報部会)



岸和田市主催 SSF 市代表団歓迎昼食会



2022  
10/31  
(月)

## SSF DELEGATION VISITING だんじり工務店



一行が見学を訪れたのは、南海本線沿いの南上町Y工務店。創業68年で現在の匠は二代目で40有余年です。熟練の技を持つ職人たちと共に、全国各地の祭礼における山車、地車、屋台、神輿などを制作しています。訪問時はコロナ禍のため4年連続で祭りが中止されている奈良県K市内から依頼された、だんじり7台中、2台を修復中でした。岸和田型に比べると小振りで彫刻もやや大ざっぱですが間近で見ると迫力十分です。

皆さん、精巧な作りに感嘆するばかりでした。材料に樹齢300年を超える良質のケヤキ材が使われているのは、木目が美しく、磨くと著しい光沢を生じ、堅くて摩耗に強いので、神社仏閣や仏像などにも用いられているそうです。1000個以上からなる部材を彫刻師が下絵を書いて荒彫り、仕上げ、彩色し、だんじり大工は彫り物を受け取り、それを組み上げていきます。製作に費やす日数、手間、完成度を見れば、100万ドル以上の費用を要し、4~5年の歳月がかかることを納得していただきました。



カリフォルニアでは木彫りの彫刻物はなく、せいぜい中国系寺院の仏像くらいで、他は西洋文化の大理石彫りか、鋳造物が主体となっているそうです。一方「だんじり」の精巧な彫り物の題材は迫力のある定番の合戦物や日本神話が彫られることが多いが、丹精を込めて制作された「だんじり」は、正に「movable cultural asset / 動く文化財」との評価です。

Yさんにとって、丹精を込めて制作した「だんじり」は、自分の分身と同じようなもので、祭りの間は心が休まることなく、事故もなく無事に曳行できるように、と願っているそうです。

最大の喜びは製作が完了し、納入先の町で「入魂式」が終わった時だそうです。入魂式/Ceremony to repose the spirit of deity into DANJIRI が終われば 晴れて「だんじり」/Movable shinto-shrine となります。(広報部会)

最大喜びは製作が完了し、納入先の町で「入魂式」が終わった時だそうです。入魂式/Ceremony to repose the spirit of deity into DANJIRI が終われば 晴れて「だんじり」/Movable shinto-shrine となります。(広報部会)



## SSF DELEGATION HAVING

### 茶の湯 / Tea Ceremony

伝統的な茶の湯形式は、時節柄、自粛を求められているため、今回はワークショップ形式で、南海浪切ホール和室にて茶の湯を体験していただきました。事前に畳の上に座ることは absolutely NO! という強い要請があったため、テーブルと椅子を使って、会員の茶道講師Nさんとサポート4名の方々の指導で進められました。

茶の湯を体験するためには、やはり歴史と精神をある程度、理解していただく必要があります。今年は茶道の祖と言われる千利休の生誕500年にあたり、これに関連して「茶室」「抹茶」「茶道具」「わび、さび」など難しい用語の説明をわかり易くまとめた英文版を来日前に配布済ですが、これが非常に役に立ち、茶の湯体験に抵抗感なくチャレンジできたそうです。

本来の茶室をイメージしながら、季節や機会に合わせて飾



られる、床の間に掲げられた掛軸や生け花を注意深く見入っていました。お茶を出すまでのお点前拝見、甘い茶菓子の食べ方、抹茶、熱湯、茶筌を使ってお茶をたてる体験、苦みのある薄茶を飲む。など短時間でしたが、茶の湯の片りんを理解していただけたものと思います。

予めご一行の皆さんに、本来の茶の湯の精神に関連するクイズを出しておきました。「茶室に入る にじり口は何故小さいのでしょうか?」。全員正解でした。

ヒント:茶室内では万民平等。

Why is the entrance for the guests so small that they must crawl and bow? ANSWER:

A) Only the master, who controls the tea room, can enter through another main entrance.

B) Everybody can enter the tea room and enjoy equally regardless of social status without bringing anything.

C) This small entrance means to isolate the spiritual world of tea from the mundane world. (広報部会)



## 会長 新年のごあいさつ



会長 井上 實

皆様とともに平安のうちに新年を迎えられたことを大変うれしく思います。

新型コロナの感染が確認されて早くも3年が経過しようとしています。私たちには、何よりも他の人に感染させない、自ら感染しないよう今、心がけることが求められています。

さて、岸和田市は昨年来市制100周年の記念すべき年に当たり《城と祭りと輝く未来》をテーマに様々な行事やイベントを市民や企業、市民団体とも協働して実施しています。

岸和田市国際親善協会として次のように参加、主催、協賛し、共に祝ってまいりました。

- [1] 11月1日に向けてのカウントダウン集合写真の市のホームページへの掲載（日本語サロン、KIMONOクラブ、イングリッシュ・オープン・カフェ）
- [2] 日本語の理解が難しい人には「易しく」、また必要な情報が届きにくい人には「優しい」日本語を広く普及させるために、小冊子『やさしい日本語を使いましょう』を編集発行し、市民や市の窓口、市立小中学校園、地区公民館等に配布・配架し、活用を促進

## ふれあい交流祭り

3年ぶりに国際交流基金 関西国際センターで「ふれあい交流祭り」が開催されました。

開会式は岸和田市内の府立和泉高校のダンス部が若さ溢れる踊りで盛り上げてくれました。

コロナ禍の期間はセンターには、世界各国からの日本語研修生が一人もいませんでしたが、やっと最近研修生の受け入れも再開、祭り当日は世界27か国から30名の若手外交官、公務員とオーストラリアの大学の日本語学科の大学生たちも滞在しており、地元の子供たちと片言の日本語で交流しているほほえましい光景があちらこちらで見受けられました。各国の民族衣装を着た研修生のファッションショーもあり会場はまさに国際交流の場です。

岸和田市国際親善協会のブースは「日本の遊び&私の漢字」を企画、羽根つきやけん玉、コマ回しなど日本の遊びを楽しんでもらいましたが、一番の人気は、色紙に



研修生によるファッションショー

2022  
11/23  
(祝)

- 協賛事業—
- [3] 市民と会員が参加する多文化共生公開講座『単独自転車世界一周&家族6大陸大冒険〜たくさんの方の交流を通じて感じたこと〜』を実施。講師：坂本達氏（株式会社ミキハウス社長室）

- 冠事業—
- [4] 市制100周年のお祝いに訪れたアメリカの姉妹都市サウス・サンフランシスコ市からの4名のゲストへの市内案内とおもてなし（地車工場見学、茶席ワークショップ、歓迎交流会）
- [5] さらに3月までに関連した講座や交流会を逐次計画・実施していきたいと思っております。  
どうか会員の皆様の積極的な参加をお願い申し上げ、新年にあたってのご挨拶とします。

## 栄えある功労表彰

市制100周年にあたり、岸和田市国際親善協会の役員として10年以上市制発展に貢献された次の方々各市より表彰されました。

桐原喜彦	井上 實	樽谷弘子	東田和代
米川典子	井手 勤	西村令子	三森すみ代
塩屋 裕	服部圭子	村木靖子	藤平敬子



漢字一文字を書く体験。最初にくじを引いてもらい、そこに書かれている漢字一文字を色紙に書いてもらいます。たとえば「絆」「昇」「寿」「舞」など難しい漢字です。漢字を書いたことのない外国人の筆順はいろいろですが、何とか書き上げ、色紙などでデコレーションして完成です。しかし必ず、漢字の意味を聞いてきます。それを英語で説明しなければなりません。お手伝いいただき、その場を華やかにしてくれた KIMONO クラブの方々も冷や汗をかきながら片言英語で説明。国際交流とはこんな場面から始まるのだと実感しました。

(事業部会 内田満弥)



開会式に駆けつけてくれた 和泉高校ダンス部の皆さん

# 自転車世界一周&家族で6大陸大冒険!

2022  
11/19  
(土)

## たくさんの交流を通じて 感じたこと

「講座」と言うより、「感動」と「驚き」の連続のあつという間の2時間でした。

お話をしてくださった坂本達(たつ)さんは、大阪に本社を置く子供服メーカーMH社のバリバリの現役社員。そんな人物が、どのように時間とお金を工面して、ましてや自転車で世界一周できるのか?話を聞く前の関心事は、そちらの方でした。

しかし、スライドに映し出された言葉は「感謝」、「ありがとう」でした。踏破した世界43か国のエピソードの中心は人と人との触れ合いです。それも文化や芸術のような通り一遍等なものではなく、その土地の人々と共に生活し、汗を流し、涙した貴重な体験談ばかりです。

カメルーンでは、食事に洗面器に入った蛾の幼虫を出された。スライドには緑と黒の縞模様の親指の大きさ位の芋虫が山盛り。会場からも「えーっ!無理!」との声。坂本さんは意を決して飲み込んだ。すると、彼らから「お前は俺たちの仲間だ。」

ギニアでは、なんとマラリアを発病。ギニア人医師が「このままでは治らない」と注射を合計6本してくれ、なんとか一命をとりとめた。坂本さんが医師に「僕を治してくれた薬



ギニアの民族衣装の坂本さん

はどれ?」と聞くと「もうない」との返事。医師は村に残っていた最後の注射すべてを坂本さんのために使っていたのだった。

帰国後、坂本さんは本を出版しその印税で、恩返しとして、井戸がなかったギニアの村にきれいな水を得るため「井戸掘りプロジェクト」を村人たちと共に発足させた。

初め村人たちは、井戸を日本人が作ってくれ、ずっときれいな水もプレゼントしてくれると勘違いしていたが、今は「自分たちの井戸」の意識が高まり、彼らの力による手掘りの井戸が完成した。まさに、日本とギニアの共同、共生作業だ。

「多文化共生」を辞書では、「国籍や民族などの異なる人々が、文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと。」と書いてありますが、そんな通り一辺倒ではない、心と心のふれあいを

教えていただいた貴重な時間でした。(事業部会 内田満弥)



村に初めての井戸ができた!!

多文化共生講座



坂本達オフィシャルサイト  
<http://www.mikihouse.co.jp/tatsu>



## タイ人日本語教師 着物文化に触れる

2022  
10/8  
(土)

10月8日(土)にマドカホールで行われた KIMONO クラブの着付けの練習会に、タイ人の3名の女性が見学に来られました。タイ中等教育日本語教授法訪日集中研修中のファーさん、キックさん、ナットさんです。KIMONO クラブには外国の留学生の方が過去に何度も見学や体験に来られて、おもに英語でコミュニケーションをはかってきましたが、今回に限っては日本語オンリー。なぜなら皆さんバリバリの日本語教師の精鋭揃いで、日本語力を磨くために来日されているからです。

最初に3人の日本語での自己紹介のあと、KIMONO クラブのメンバーから歓迎の挨拶と KIMONO クラブの趣旨についての説明がありました。さすがに難しい日本語を習得して現地で教えている先生とあって、言葉の壁を超えて3人ともにこやかな余裕の表情でした。

クラブのメンバーから「日本には着物という民族衣装がありますが、タイにはどんな民族衣装がありますか?」と質問がありました。キックさんがタイの民族衣装のワンピースを着ておられたので、立ち上がって見せてくださいました。タイには絹や綿の布を身体に巻き付けるシワライと



いうトラディショナルな衣装があり舞踊などで見ることができます

が、彼女が着ているのは刺繍が施された山岳民族の鮮やかなワンピース。伝統衣装をリアルクローズとして若々しくコーディネートされていて、KIMONO クラブのメンバーも

感心しておりました。また、タイのお土産品として日本人には親しみあるタイシルクも、現地の人には贅沢で持っている人は少ないという話もお聞きして、あらためて着物という絹をまとえることの幸せをタイの方から学ばせていただきました。

せっかく KIMONO クラブに来てくださったので、皆さんに着物の着装体験をしていただきたかったのですが、スケジュールの都合で叶わず残念だと思っていたところ、なんとその夜、ホームビジット先で、サプライズで三人に浴衣を着ていただくことができました。

着物を通じ、日本とタイの国際親善が一層深まったことを実感しました。(新矢由紀)



## 第15期 日本語ボランティア 養成講座上級終了式

2022  
9/29  
(木)

9月29日(木)に第15期日本語ボランティア養成講座(上級)の修了式を行いました。初級・上級と2年間にわたってご指導をいただいた澤田先生、服部先生にもご同席いただき今期は20名の受講生の方々が無事に修了され、



これから日本語ボランティアとして各サロンで外国の方々の日本語学習支援に携わっていただきます。

修了式には各サロンより代表の方々にもご出席いただき、現在の学習者の

状況などをお話いただくとともに修了生の方々との交流や情報交換、これから各サロンに参加する際の疑問や質問にもお答えいただく時間を設けましたが皆さんとても熱心に質問されていました。講座の受講の間はコロナ禍にもかかわらずみなさん楽しく勉強されて澤田先生、服部先生とも和気あいあいと熱心に質問などもされていました。それは澤田先生、服部先生の所感から受け取ることができました。サロン生代表の所感においてもこの養成講座を受けてよかったとの思いが伝わってきました。

それぞれ日本語ボランティアに参加された動機は色々だと思いますが、今後新型コロナウイルス感染防止措置により規制強化されていた外国人の入国規制も少しずつ緩和されてきていますので各サロンでの学習者が今後増えることも予想されます。

外国人の方たちと共に自分自身も勉強できる喜びをもって今期修了生の皆さんの活躍を期待しています。

(小島祥子)

### 第15期 日本語ボランティア 養成講座<上級編>修了者

青木 和子	板倉絵里子
井上 和美	岩尻 誠
内田 満弥	大北 宮子
荻野 和則	川井美智子
川口 康博	田中久美子
中道 典子	西 由美
西野 隆子	西村 紀子
畠中 智子	平松 明美
水野 正司	山本 周二
吉田恵理子	渡瀬 恵子



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャー、ファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。

## 《ヨルダン川西岸》



1996年撮影当時の国境有刺鉄線

現在

4000年の時を超える歴史を持ち、さまざまな要素が融和する国がイスラエルである。国境付近へ行けば戦時下の緊張感がある一方、国の中ではそんな雰囲気はみじんもない。超近代的な建物の隣に古代の遺跡がたくさん残されている。モスクと教会とシナゴークが隣同士に並び、コーランをよむ声に教会の鐘とユダヤ教徒の吹く角笛が交じる。戦争と平和、近代と古代、ありとあらゆる一見相反するさまざまな要素がそのままに同居している。対立するそれぞれの主張を対決させるのではなく、適度にバランスを保ちつつ持続させている。どの宗教の信者にとっても聖地であるエルサレム旧市街地区では、クリスチャン、モスリム(アラブ人)、ユダヤ人、アルメニア人の4つの民俗(宗教)による住み分けが調和良く維持されている。

しかし聖地エルサレムを出て死海方面に向かうと一気に緊張感が漂ってくる。所謂ヨルダン川西岸地区と呼ばれるパレスチナ自治区となっているが、イスラエルの軍事支配下に置かれ、常に厳しく監視されている。周辺の丘の上に多くのイスラエルの入植地が整然と立ち並び、パレスチナの村々を取り囲んでいる。私が訪れた1996年には有刺鉄線を取り囲み、ヨルダン国境の丘の中腹にはヨルダン方面に向けたミサイルが設置されていた。現在では「イスラエル側の安全を確保する」という理由で巨大な分離壁が建設されている。その結果、パレスチナ自治区を飛び地状態にし、村が壁によって隔られているため、学校、病院、自分の畑などに行くための道路が閉ざされ、厳しい検問所を通らねばならない。

この地域の中心都市であるエルサレムは、ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒にとっても聖地でもあり、東側と旧市街には多くのパレスチナ人が住んでいる。そのため国連は「国際管理都市」と決議しているが、現在でも実際にはイスラエルに併合され、自国の首都と主張している。しかし国際社会はこれを認めておらず、イスラエルの首都はテルアビブとみなしている。唯一米国だけが例外でトランプ大統領時、アメリカ大使館をテルアビブからエルサレムに移転させた。一方パレスチナ自治政府は東エルサレムをパレスチナ国の首都と主張している。近い将来、どの国も認め合う国境が平和的にひかれることを願ってやまない。(塩屋 裕)



## 東岸和田サロン 『みかん狩り』

2022  
11/11  
(金)

11月11日(金)、小学生1名、幼児3名、サロン生14名、ボランティア14名。待ちに待ったみかん狩り、今年は30数名(子どもを含む)の大人数での参加となりました。皆さんの気持ちを表すかのように当日は秋晴れの好天気!みんな赤い袋とハサミをもらい、目ざせミカン!とは言えみかん山です。坂あり溝あり、苦労しながらおいしそうミカンの木を探し回り、そしてすわり込んで、ミカンを食べながらのおしゃべり。

本国では、みかん狩りなどしたことがないサロン生らも楽しく初体験できたようです。

隣の畑で大根堀りの体験もゆったりして、みなさん、おみやげを手に散々、午後、帰って行きました。来週からまた学習を頑張りましょう!

(福嶋登志子)



10/15  
(土)

Jan Michael Y. Pardilla さん  
(フィリピン)



パynaップル繊維の織物を素材にしたあでやかな民族衣装(バロン・タガログ)で登場したのはフィリピン出身のジャン・マイケルさん。

現在は岸和田市内の小・中学校でALT (Assistant Language Teacher)として英語指導で活躍している。フィリピンは島の数が7,641 (外務省ホームページより) で日本と同じく多くの島々からなる。方言の数は180以上もあるが、公用語はフィリピン語 (タガログ語) と英語。英語教育は小学校から徹底しているので、ほとんどのフィリピン人が英語を流暢に話せる。主な8つの方言で「こんにちは」と「ありがとう」を綴りと発音で紹介してくれたが、私にはほとんどチンプンカンプン、私達大阪人が

標準語はわかるけど、東北地方の方言が聞き取れないのと同じか。

ジャンさんの故郷はフィリピンの南の島ミンダナオ島にある大都会ダバオ市。フィリピンで最も安全な町で、お酒の販売や喫煙に関してルールが厳しく地域の警察の活動も徹底しているとのこと。そのようなことを聞くとちょっと堅苦しい町を想像するが、フィリピンの特産のドリアンでも有名な町で、収穫がピークになる8月にはドリアンの独特の匂いが町中に漂う。そんな時期にぜひ一度訪れたい町である。

(内田満弥)

11/5  
(土)

Chim Chan さん  
(アメリカ)



November's EOC speaker was Chim Chan. He is a 40-year-old American researcher who works at Osaka Metropolitan University.

In his talk, he shared with us his experience living on Vanuatu island where he was conducting Malaria-related activities in cooperation with Japanese and Vanuatu leaders.

We learned interesting sociocultural aspects of the island like the fact that there are three official languages in Vanuatu: English, French, and Bislama. Besides this, they have more than 100 local languages which make communication unique. We also learned about the commonly used symbolism on the island. I was particularly interested to find out

that the spiral in the center of the national flag represents a pig's tusks, which are of high value in Vanuatu. In fact, the length of a tusk is closely related to the owner's Economic position and therefore more likely to have a better social placement in society.

Vanuatu is a beautiful place with a lot of wild nature that makes it a unique destination. Besides that, human interactions are fascinating and rewarding as we can learn many from the locals. We are looking forward to visiting Vanuatu and experiencing the amazing culture!  
(Katherine Candray)



国際交流の中で不可欠なのは外国語です。しかし、日本語は他の外国語と比べて、文字も文法も全く違う言語です。これが私たち日本人にとって外国語を学ぶ上で大きなハンディキャップとなっています。また古来から海に囲まれ外国文化に接する機会が少なかったことから、無意識のうちに外国語にコンプレックスを持つようになり、苦手意識を持つのは当然です。

このような背景のなかで、皆さんはどのようにして外国語に接し学習しているのか、苦労話や感じていることを自由に投稿していただきましょう。

Let's learn foreign language.

## 《オーストラリアの外国語教育》

Multicultural society(多文化社会)と表現されるオーストラリアでは海外で生まれた者または両親のどちらかが海外で生まれた者が人口の50%を超えている。その為、移住者に公用語の英語を教えるESL(English as Second Language 第二言語としての英語)とEFL(English as Foreign Language 外国語としての英語)のカリキュラムが確立されている。また、LOTE(Language Other Than English 英語以外の言語)いわゆる外国語の教育も、移住者の母語を尊重し家庭や移住者のコミュニティでもその外国語を継承できるように教育の配慮がなされていると共に、外国語を学ぶことによって多様性の社会で「違い」に対して心を開くきっかけになると教育省が推奨している。

日本語は優先的に教授される外国語の一つとして含まれてお

り、80年代から小中高での学習者が増えていた。大学の教職課程のクラスメイトは社会人も多く、日本語、フランス語、ドイツ語、中国語等、それぞれが高校・大学で学んだ言語を教えたいと熱意を持っていた。9科目26単位の課程には、教育心理学など基本の科目と外国語教授法や教育実習など実践的な教授方法を学べる科目があり、全科目を履修してオーストラリアという国で教師になる心構えも出来たように思った。最初に非常勤講師として向かったのは、移住者が多く住む地域の公立中学一年生のクラスで、出張の教師に代わり地理の授業を受け持つことになった。アジア系の生徒から「先生は日本人ですね。まだ日本語を話せますか。」と話しかけられた時、自分も移民の一人として仲間に入れてもらった気がしてうれしかった。(三森すみ代)

# やさしい

## 日本語



第12回

岸和田市市制施行100周年記念協賛事業として、『やさしい日本語を使いましょう』冊子を作成しました。

日本語サロンで外国人に日本語指導を始めから、私自身、自然にやさしい日本語を使って、語りかけていたように思います。そんな風の話すと、彼らがよく理解してくれたからです。

この話し方が、やさしい日本語であるとは、最初は、気が付きませんでした。ですが、サロン生が公的機関に行くときには、よく付き添いを頼まれました。私が話す日本語ならば、彼らは理解できるということなのです。

岸和田市から堺市に引っ越すために市役所に行った外国人ファミリー。書かなければいけない書類を山のように日本語で書き、役所の部署を転々として、子ども医療証の説明のところまで、やってきました。そこで、丁寧に、流暢な日本語で、こう説明されました。

### 普通の日本語

「今日は子ども医療証をご持参いただき、まことにありがとうございました。」

しかし、今日は返却して頂く必要はありません。

後日、堺市で転入届を提出されましたら、すぐに、堺市から子ども医療証を支給されますので、その医療証を受け取ったのち、岸和田市の子ども医療証を封書にて、返却して頂ければ、結構です。」

### やさしい日本語

「きょう これを 持って

かえります。(Aさんに わたす)

堺市に 行きます。

堺市役所に ひっこしたことを 知らせます。

堺市役所で 紙に 名前と

住所 たくさん 書きます。

堺市で あたらしい こども

医療証を もらいます。

古い こども医療証は 岸和田

市役所に 返します。

岸和田市の こども医療証を

封筒に いれます。

それを ポストに いれます。」

両方とも日本語です。

前半の説明では、「？」だったAさん。後半のやさしい日本語に身振りつきならば、理解できたのです。私たち、日本人が少し話し方を変えるだけで、彼らの不安が軽減できます。

この冊子が、少しでも多くの人の手にわたるよう、市役所や公共施設で配架してもらいます。どうか、手に取って、みなさんにお知らせください。

「やさしい日本語」が広まることを願っています。

### 「やさしい日本語を使いましょう」

岸和田市国際親善協会編集  
編集委員会委員長 東田和代



# 地球家族

## 《Oily Boy》

日本には自動車のナンバープレートの希望番号制度は1999年5月に導入されましたが、「1」、「7」や「777」また語呂合わせの「1122」(いい夫婦)等の人気の番号は抽選になります。希望が集中する数字では割り振りが限界になり、それに応えるために最近では数字一桁をアルファベットにしたナンバープレートの車が登場しています。数字だと、「0」から「9」までの10種類ですが、アルファベットだと「A」から「Z」までで26種類と多くなります。ただし、「1」と「I(アイ)」や「0」と「O(オー)」や「8」と「B(ビー)」など数字と混同するアルファベットは使われません。

ここがアルファベットに



アルファベット  
ナンバー  
イメージ

一方アメリカはさすがに自由の国で、7または6桁の、数字とアルファベットの組み合わせであれば希望のナンバープレートが可能です。自分の奥様や子供の名前をナンバープレートに入れて、誇らしげに運転することができます。

日本では、ナンバープレートにひらがなが使われる上に「和泉」や「堺」などの地域を示す漢字が使われていますが、日本在住の外国人が皆、漢字やひらがなが読めるかはいささか疑問です。同じように韓国ではナンバープレートにハングル文字があり、アラブ諸国ではアラビア文字が使われているそうで、私たちがその国に行くと、自動車のナンバープレートが読めずに困ることがあるかもしれません。

タイトルの Oily Boy は大の車好きでいつも油まみれになって車をいじっていたカントリー・ジェントルマン白洲次郎のニックネーム。彼が乗っていた大正・昭和初期の車のナンバープレートはたった4桁のみ。時代を感じるとともに、もし希望番号制度があったら白洲次郎ならどんな数字にしたのか興味は尽きません。(内田満弥)



映画「日本独立」より

# 岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。

ブライアン・マホニー  
Brian Mahoney さん(アメリカ)



Living in  
**岸和田**

KISHIWADA  
第 35 回



2022年岸和田市市展にて

陶芸家で高校教師、そして日本新工芸会会友のマホニーさんはニューヨーク郊外のイーストチェスター(Eastchester)の出身です。ニューヨーク州立大学在学中に日本空手道林派系東流会に出会い約40年間稽古を重ね、今では6段を取得しています。1979年7月、一年くらいの滞在予定で同郷の友人を訪ねて来日し英語を教えながら空手を習っていました。仕事を通して岸和田市出身のみどり夫人と出会い岸和田に暮らして34年になります。成人の子どもさん3人は、アメリカ、岸和田、メキシコとグローバルに活躍されています。

陶芸は、みどり夫人が習っていたことからマホニーさんも習い始め、直ぐにその魅力にはまってしまったそうです。岸和田では90年代から市展の陶芸部門に出展し、現在は審査員として入賞者を選考しています。昨年は審査員としても出展しました。また、清風南海学園では生徒と保護者にも陶芸を長年教えていて、陶芸釜を三つ自作しました。これまで、大阪や京都で20回個展を開いています。

岸和田の街について質問したところ、マホニーさんが最初におっしゃったのが「人」でした。日本に来て、人との出会い、縁、温かさを一番に感じたそうです。それがマホニーさんに日本が、岸和田が故郷になったと思わ



「Serenade...  
Eastern Hills」

(岸和田市内)

せたのでしょうか。その他にも、食べ物が嗜好に合うこと、山や海、自然がいっぱいの街、お城と祭りなどなど、たくさんの岸和田に住んで楽しい要素を教えてくださいました。アートワークは陶芸だけではなく、岸和田市内の美しい風景画も描いていらっしゃいます。

アーティストとしての感性が日本文化とマッチしてマホニーさんの作品ができてるように思いました。そして、お話の中から、日本文化を愛している気持ちがよく伝わりました。これからの夢や望みはありますかと伺うと、今現在の日常が続くこと、家族との時間を大切に quality of life 幸せな人生を送りたいとお話いただきました。(取材 三森すみ代)



みどり夫人とメキシコに娘さんを訪ねて

## Information

### ■岸和田市市制施行 100 周年記念協賛事業 「やさしい日本語を使いましょう」冊子完成

#### ～多文化共生講座と国際交流～

「やさしい日本語」を使って外国人の方とおしゃべりしませんか

【日 時】3月12日(日) 14:00～16:00

【ゲスト】日本語サロンの学習者

【場 所】男女共同参画センター 研修室3

【費 用】無料

【定 員】先着 60名

\*詳しくはチラシをご覧ください  
お申込みください。

### ■English Open Café

各国からのゲストをお招きし、英語でプレゼンをしていただき交流を図ります。

【日時】9月以外の第3土曜日 13:30～15:30

【場所】マドカホール 3F 視聴覚室

【費用】無料

\*事務局へお申込みください。(先着 20名まで受付します)

にゅとびあ岸和田 No.134 お問い合わせや感想などは事務局まで

編集担当 内田満弥・川井美智子・新矢由紀  
田中洋子・西村紀子・三森すみ代

TEL&FAX (072)457-9694

<http://ifa-kishiwada.rinku.org/> メール [kokusai@sensyu.ne.jp](mailto:kokusai@sensyu.ne.jp)

